

モモシンクイガの発生に注意（飛騨地域）

高山市のリンゴほ場に設置した、モモシンクイガのフェロモントラップへの誘殺数が、7月第3半旬から増加しており、7月第3半旬～8月第3半旬の累計誘殺頭数は127.1頭と、平年（21.3頭）と比べて多くなっています（図）。

本虫は、成虫が5月下旬から9月上旬ころまで連続的に発生・産卵して被害が拡大します。リンゴ及びナシ類では卵が果実底部の凹みに多く産み付けられ、4～5日間（30℃の条件下）でふ化した幼虫は果面を少し移動してから果実中に食入し、果心部及び果肉部を食害します。

幼虫が果実内に食入してからでは薬剤による防除が難しいため、成虫発生期には定期的な防除を実施し、産卵・幼虫の食入防止に努めてください。

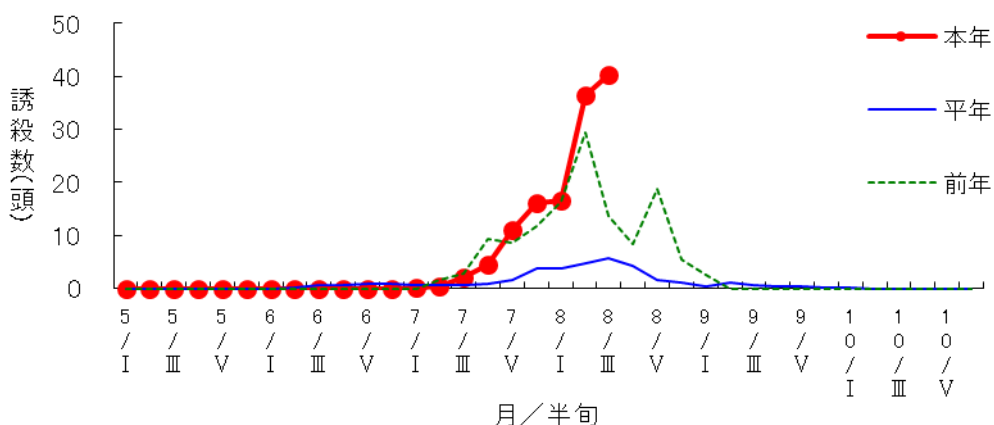


図 フェロモントラップによるモモシンクイガ誘殺数の推移(高山市)

- ・ 農薬の使用にあたっては、最新の登録内容を確認し、適正に使用してください。
農薬登録情報提供システム
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・ 当所のホームページに発生予察情報、病害虫調査データなどを掲載していますのでご活用ください。
岐阜県病害虫防除所
<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>